

格差増大

考えてみよう

# プロジェクト研究 拭いきれない不平等感

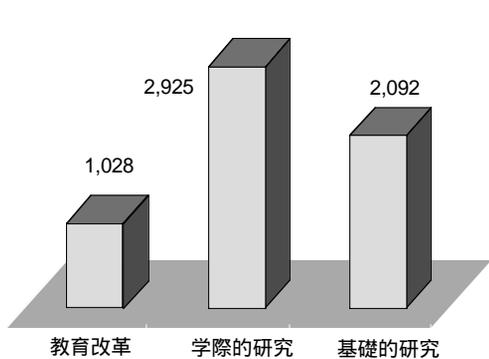
## 経常経費の圧迫

近年、私たちの経常経費は圧迫されています。

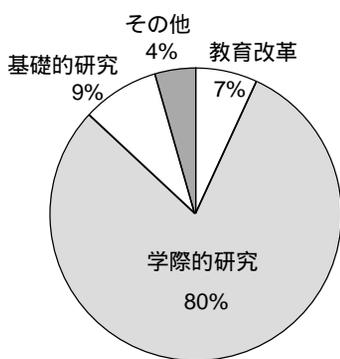
毎年きまって利用できる経常経費で新潟大学の研究・教育は支えられています。国の研究費の重点配分政策だけでなく、新潟大学までもがプロジェクト研究の名のもとに校費の重点配分を今年度からはじめました。基盤である研究費までも削減してプロジェクト研究に配当することが本当に新潟大学を発展させるものかを真剣に考える必要があります。

基礎研究軽視？  
教育軽視？

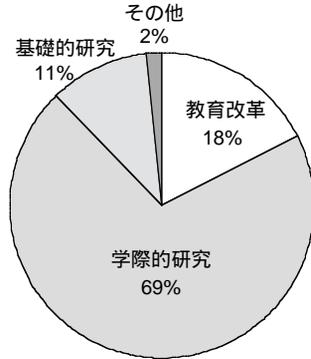
## 配分のほとんどが学際的研究



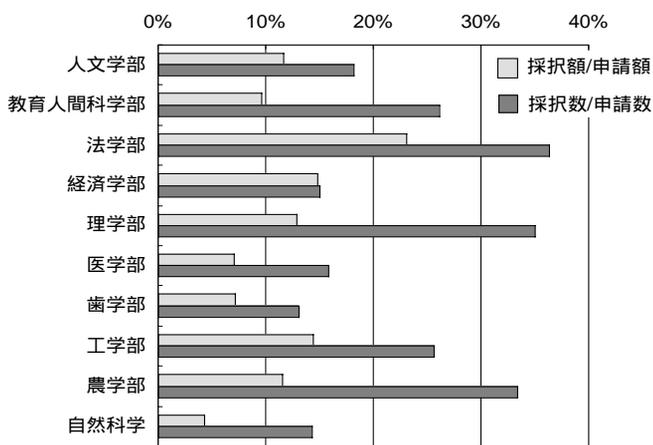
図C 平均研究経費(千円)



図B 研究費配分



図A 採択数内訳



図D 学部別採択比率

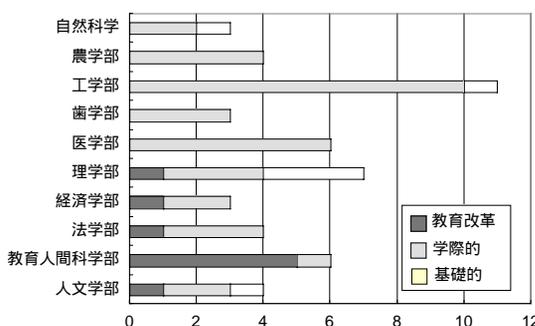
プロジェクト研究の申請数は二七一件、そのうち採択は五七件です。教育改革に九八三万円、学際的研究に一億一、五二万円、基礎的研究に一、二五五万円、その総額は、一億四、三九一万円(申請総額一六億一、七七七万円のわずが九%)でした。その採択数と研究費配分の内訳は図A、Bです、教育改革や基礎的研究が少なく、大半が学際的研究です。そして、採択数で採択額を割った平均研究経費は、図Cになります。教育改革の研究経費が少ないことが際立っています。科研費などでは対象にならない教育改善などの経費は、プロジェクト研究でも軽視されました。

## 真の研究・教育のための改善を

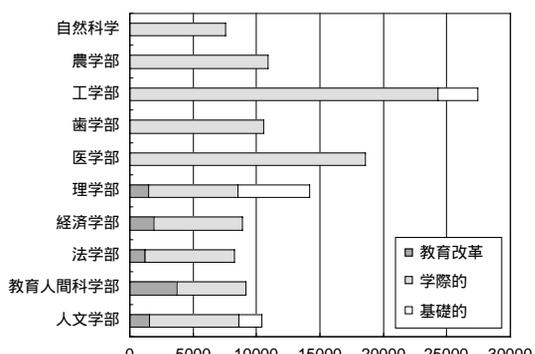
## 学部間格差の拡大

かつては特別設備費、設備充実・更新の経費があり、計画的に学科や講座に配分されてきました。それにより、経常研究費では購入できない設備などを計画的に購入し、教育・研究の充実を図ってきました。そのような予算の配分は不公平感もなく、計画的に利用され真に教育・研究の充実につながりました。

一方、学長裁量経費、プロジェクト研究は研究経費の不平等配分により経費配分の貧富の差を拡大させました。互いに学問を尊重し、協力すべき大学で、格差の増大は大学の荒廃まねく危険もあります。国の重点配分の名による大学間格差を是正すべきときに、プロジェクト研究のあり方を再検討する必要があります。



図E 採択数



図F 研究費配分(千円)

プロジェクト研究の学部別採択数は図Eです。また、学部別研究費を図Fに示します。研究費の配分では、理工系に多く配分される結果になり、教育改革の採択数の多い教育人間科学部は採択数に対し研究費額が少なくなります。

プロジェクト研究は、全教官の研究費から五%ずつ拠出した貴重な財源です。しかも、これは水光熱費削減(五%)に加えて削減されました。そのため、配分についての公平さを保つことも大切です。しかし、採択性を取る限り、不公平感が生じることは避けられません。一方、プロジェクト研究は単年度の研究で、一年で成果が出るか疑問です。今後のプロジェクト研究の継続が、さらに不公平を拡大することも懸念されます。多くの矛盾を抱えたプロジェクト方式を再考の必要があります。